まちの話題

被災地にできることを！3町村の中学生が合同で募金活動を実施

西原町・中城村・北中城村にある4中学校の生徒が東日本大震災の継続支援のため、8月22日にサンエー西原シティーで募金活動を行いました。この活動は、7月に開催された「第8回3町村中学生フォーラム」で「自分たちにできること」というテーマ討議がきっかけで実現。被災地への継続的な支援が必要と考え、町民と交流しながら身近にできることをしようという提案のもと募金活動を実施しました。この日は各中学校の生徒会役員を中心に約90名が参加。4つのグループごとに、自分たちで制作した看板やプラカードを手にとりながら、買い物客に募金を呼びかけました。参加した桑江優哉くん（西原中3年）は「震災が起きたときは見ていることしかできなかった。少しでも助けになりたいという気持ちで参加した。」と力強く語り、益田原由佳さん（西原東中2年）は「募金活動をするのは初めてで不安だったけど、たくさんの人が協力してくれてうれしい。」と充実した表情を浮かべていました。

被災地の支援活動をパネル展示で報告

政策研究を目的として町役場の若手職員で組織する「西原町まちづくり研究会」第6期生が、東日本大震災の被災地で行った支援活動を報告するパネル展を8月23日から31日まで、町立図書館で開催しました。同研究会は防災をテーマにまちづくりを研究しており、その一環で6月28日から7月1日まで宮城県亘理町や福島県南相馬市を訪れ、支援活動に従事。被災地の現状や、ボランティアの仕組みなどをパネルとコメントで紹介しました。リーダーの玉那覇司さんは「見たこと、体験したことを町民に伝えなければとの思いで開催した。役場職員として、経験を地域に還元することが大切。」とパネル展への思いを語りました。

沖縄の暮らしを支えてきたフクギを学ぶ
―内間御殿国指定記念講演会を開催―

内間御殿が国指定文化財になったことを記念して「沖縄のフクギ屋敷林を考える」（ニシバル歴史の会主催）講演会が8月27日、仲間勇栄琉球大学農学部教授（写真）を講師に招いて町立図書館で開催されました。仲間氏は、内間御殿の敷地内に多く植えられているフクギについて「塩害などに強いという特徴があり、台風対策などのため昔から植えられた木。人々の生活を守ってきた。」と説明。沖縄の屋敷林として自然環境に適応したものと語りました。内間御殿のフクギは樹齢200年程度から300年以上のものが混在しており、「状態を詳しく調べることで内間御殿の変遷が分かる貴重な資料。フクギを大切に見守ってほしい。」と訴えました。

島野菜がおいしく料理できた！
―島やさい料理親子交流会を開催―

3世代が協力して調理実習に取り組み、島野菜を食べ親しんでもらおうと「世代間交流　親子で学ぶ料理講習会」（町生活研究会主催）が8月19日に町中央公民館で開催されました。開催にあたり小波津ミヨ子会長は「今の子どもたちは昔ながらの食材を食べる機会が少なく、島野菜になじみがない。簡単に作れて子どもたちが好みそうなレシピを工夫した。」と目的を語りました。豆腐とひじきのハンバーグなどを完成させた子どもたちは「自分でがんばって作ったのでおいしい。」と料理に舌鼓を打ちました。

坂田地域通り会が美化活動で表彰

西原町坂田地域通り会（奥間道雄会長）は、長年の美化活動の功績が認められ、8月10日に行われた「平成23年度道路愛護功労者表彰式」で国土交通大臣表彰を受けました。同通り会はこれまで10年以上、坂田交差点周辺の清掃や美化活動に取り組んできており、その功績が今回の表彰につながりました。奥間会長は「会員同士で協力して、月に1度の活動を続けられた。今後も植栽などに取り組んで美しい地域づくりを目指したい。」と喜びと抱負を語りました。

宝くじの事業を活用し、桃原自治会が音響設備などを整備
―平成23年度コミュニティ助成事業―

宝くじの普及広報事業である「平成23年度コミュニティ助成事業」の助成を受けることが決定した桃原自治会（喜屋武良規会長）が、音響設備などの整備を行いました。これにより屋外での放送設備が整い、喜屋武会長は「日ごろの広報や盆踊り、十五夜などの自治会イベントが充実する」と喜びを語りました。同自治会は音響設備以外に、芝刈り機なども購入。「これらの設備を活用して、西原で一番の自治会を目指したい。」と意気込んでいました。

なぎなたの全国大会で小中学生が飛躍

平成23年度全国少年少女武道なぎなた練成大会が8月7日に東京都で開催され、演技競技の小学校5・6年生の部で喜久山彩恵さん（西原小6年）と瀬長桃子さん（同小6年）が2位にあたる優良賞に輝きました。また、8月24日に千葉県で開催された第19回全国中学生なぎなた大会では、試合競技個人で玉城由望さん（西原東中3年）が準優勝、演技競技で大城舞さんと安次嶺友恵さん（ともに同中3年）が3位に入賞。試合競技団体では、西原東中が4位に入りました。試合競技の個人・団体、演技競技のすべてに出場した玉城さんは「上位入賞はうれしいが、負けた悔しさも感じた。これをばねに、高校でもがんばりたい。」と今後の抱負を語りました。

全国大会に出場した小学生メンバー

個人・団体と活躍した西原東中なぎなた部

放射能から子どもたちを守ろう！小出裕章氏が放射能の危険性を指摘
―「放射能と子どもたち」講演会を開催―

全国的に放射能汚染が問題視される中、8月13日に町中央公民館で第26回講演会「放射能と子どもたち」（町立図書館主催）が開催されました。講演会には京都大学原子炉実験所の小出裕章助教（写真）が講師として講演。町内外から延べ700名近くの方が訪れ、会場を埋めつくしました。

原子力と放射能の研究に長年従事している立場から、小出氏は「どの程度の放射能の量なら安全か、安全な被爆量というものはない。」と放射能汚染の危険性を示しました。福島第1原子力発電所の事故については、「今回の震災と原発事故で『正しく理解すれば、原子力は安全だ』という安全神話は崩壊した。」と厳しく指摘。事故により避難を余儀なくされている子どもたちを懸念し、「子どもの健康を心配して遠隔地に引っ越すか、避難所で生活するか、どちらがいいとは言い切れない。」と複雑な表情を浮かべました。また農産物の危険性について、「汚染された食品はすでに出回っていると考えたほうがいい。放射能の影響を受けやすい子どもたちには食べさせてはいけない。」と注意を呼びかけました。

原子力政策と沖縄の米軍基地問題は同質の問題を抱えているとし、「国益を優先し、危険性を押し付けてきたのがこれまでの経緯。沖縄の人たちは自分たちの暮らしを守るためにがんばってほしい」とエールを送りました。